

シリーズ いしかりの子どもたち ④

子どもの読書

— 市民による読書環境づくり —

読書の素晴らしさを知る大人たちが、子どもたちに本の魅力を伝えようと、さまざまな形で取り組んでいます。



▼布の絵本サークル「にじ」
手作り大好きのお母さんたちが集まって市民図書館オープン時から活動しています。現在、メンバーは8人。



日曜日の午後。お父さんやお母さんと一緒に、小さな子どもたちが市民図書館にやってくる。今日も楽しそうに本を選んでいきます。貸出期間は2週間で、貸出冊数に制限はありません。子どもたちは気に入った本を見つけたら図書館のブックカートに入れて、また次の本を探し始めます。そのカートをちよつとのぞいてみると…普通の絵本に混じって布製の絵本が入っていることがあります。

この布製絵本は、一体誰が作ったものなのでしょうか？

◆布絵本の世界で自由に遊ぶ

現在、図書館には約60冊の布絵本があります。これらは石狩市民図書館へ布の絵本サークル「にじ」のメン



◀「あかちゃんと絵本のへや」

赤ちゃんに絵本に親しんでもらえるよう市民図書館本館内の和室を開放。「畳の上でごろごろしながら絵本を見られるのが魅力!」「たくさん絵本の前で子どもがどんなものに興味を示すか、見ていると面白い」と、お父さんやお母さんに好評です(毎月第4火曜10:00~12:00市民図書館本館 研修室3)

バーによる手作りです。「最近では、着せ替え的な絵本が子どもたちにも人気がありますね」とは同団体の代表である岡本俊子さん。布で作られたページをめくると現れる、これもまた布で作った洋服や小物。それらを自由に使って自分だけの物語を作って遊ぶのが子どもたちのお気に入りらしく、それは、市民図書館本館で毎

【10月の市民図書館の休館日】

10月2・9・16・23・30日(すべて月曜)

祝日振替日/10日(火)、月末整理日/27日(金)

月1回開く『あかちゃん絵本のへや』でも目にする光景です。

「1冊の絵本を、みんなで分担して作り上げています。だから出来上がったときの喜びもひとしおです」。岡本さんたちのこうした思いが伝わるのでしょうか、子どもたちに絶大な人気を誇る布絵本たちは貸出も多く、そのためどうしても、ほころびたり、破れたりすることが少なくありません。そこで月2回の制作活動日、岡本さんたちは市民図書館に集まり、これらの補修作業にも精を出します。次に借りてくれる子どもたちのために――。せつせと針を動かす「にじ」さんたちの活動は、今日も見えないところで行われています。

◆学校図書室で広がる夢

子どもたちは、気に入った本を繰り返し何度でも読みます。そのため、大人の本以上に傷みも激しいようです。市民図書館では、破損した個所を修理して、また書架に並べていますが、その技術を学校図書室でも応用してもらおうと、修理研修が行われました。

子どもたちに最も身近な存在である学校図書室を活性化させようと、学校と市民図書館が連携するプロジェクトが、花川南小学校(島田義治校長)をモデル校として始まっています。

ます。8月24日には、実際に市民図書館の司書たちが学校に足を運んで、破損した本の修理方法を教えるところからスタートしました。このとき、図書委員の児童たちとともに参加したのが学校支援ボランティアのお母さんたち。中には「子どもは今年卒業したのですが、何かお手伝いできたら」と参加する方もいました。

残暑の中で汗をかきながらも、破れたページを専用のりで張ったり、傷みやすい背の部分や表紙まわりを保護シールで補強するなどの作業にもくもくと取り組んだボランティアさんたち。「子どもたちと話しながら楽しく作業ができました。このような機会を通じて子どもたちにも本の大切さに気付いてもらえたらいいですよ」

終了後は、ボランティアさんたちの間で今後月2回、午前中に集まって修理作業を続けていこうという話がまとまり、帰り際

には「本を並べる高さをもっと低くした方がいいのかも」「机の配置も工夫すれば印象が変わるよね」といった声が聞こえてきました。図書室活性化へ向けた参加者たちの活動が地道に進んでいます。

◆それぞれの「読み聞かせ」

自分と向き合える大事な機会を与えてくれる読書。でも、残念ながら「活字は苦手」という子どもたちが増えています。そこで注目を集めているのが「読み聞かせ」。子どもたちが本を手取るきっかけになればと、市内ではさまざまな場所で多くの人たちが「読み聞かせ」に取り組んでいます。



▲花川南小学校の図書室でボランティアさんと子どもたちが一緒に本を修繕

プ子★としょかん通信

■学級団体貸出

市内小・中学校では現在、「朝の読書」運動や授業での「調べもの学習」を通して、子どもたちの「本に接する機会」を増やしています。これに伴い、市民図書館では子どもたちにできるだけ多くの本を提供しようと、20冊を1セットに貸し出す〈学級団体貸出〉を行うほか、司書による〈図書館利用ガイダンス〉で、子どもたちの資料探しをサポートしています。

